

# 霊の賜物の発見

## ◆霊の賜物に関する新約聖書の探究

|     |                       |                                    |
|-----|-----------------------|------------------------------------|
| 第一部 | もてなし、ローマ二二章           |                                    |
| 第二部 | 勧告、コリント第一・一二章         |                                    |
| 第三部 | 教え、コリント第一・一二章、エペソ四章   | 著者、ロイ・C・ネイデン<br>(アンドリウス大学宗教教育部準教授) |
| 第四部 | 知識、殉教、見分ける力(洞察)、信仰    | 発行所                                |
| 第五部 | 慈善、知恵、指導、牧会(羊を養う)     | 世界総会チャーチ・ミニストリー部                   |
| 第六部 | 伝道、助け(奉仕)、使徒、寄付       | 翻訳・発行                              |
| 第七部 | 行政管理、とりなし、外国伝道(宣教)、預言 | セブンスデー・アドベンチスト教団                   |

## 感謝の言葉

一人で何か価値のあるものを生み出すことのできる人などめったにいないものはありません。私は、この「霊の賜物の発見」の資料を開発するために、おおぜいの同僚たちのおかげをこうもっています。シリーズの中のすぐれたものの多くは、彼らの洞察力によるものです。しかし、彼らは、最もすぐれたもの以外のものについて、責任を持つ必要はありません！私だけがそれに対して責任を持っているのです。

まず第一に、私の週一回のバイブル・クラスのメンバーの方たちです。彼らはこれらの冊子の草稿を学んで、たいへん刺激になる七週間を過ごしました。そのあと、牧師のカール・コフマン、ジョン・クロンク、シャーマン・マコーミック、そしてカレブ・ロサドの諸先生方が草稿に目を通してくださいました。ウィリアム・ガーバー、コリン・ガーバー夫妻、ピーター・スワンソン、パム・スワンソン夫妻、ロバート・クライス、パトリス・クライス夫妻は討論用の設問を練り上げてくださいました。アイバン・ブレイゼン博士は、こなれない文章をやさしく言いかえて、実に適切な言葉で示してくださいましたし、レオナ・ラング博士は、ギリシャ語の引用文を、常と変わらぬ正確さでチェックしてくださいました。

資料が準備された一年のあいだ、この出版計画は私共の家庭をも支配してしまいました。妻のジェニーは、草稿を完ぺきに推敲し、タイプしてくれましたし、ミシェルは書いたりテストをしたりすることに没頭し、マークは、美術的なことやレイアウトのすべてに気を配ってくれました。

この計画に手を貸してくださったこれらの方々や、そのほかおおぜいの「賜物に恵まれた」方々の共同出資による資源が、私たちが主に仕えるにあたって、主のみ名の栄光のために、自分たちの賜物を見出し、用いることができるように、私たちみんなの役に立つようになることを祈ってやみません。

(ロイ・C・ネイデン)

## 始める前に

「霊の賜物の発見」は七部からなっています。それらは、少なくとも二つの異なる方法で用いることができます。

- a 個人的研究と考察
  - b 牧師が連続の説教をするときの研究の助け
  - c 小グループの聖書研究のためのガイド
- 小グループの研究のガイドとして用いられるときは、各グループ八名ないし一二名のメンバーが、自分たちに最も大きな恵みをもたらしてくれるアプローチのしかたを決めなければなりません。第一部から第七部まで各部分は二つの部分からなっています。情報と討論用の設問です。

- まず四つの方法で情報の部分を扱うことができます。
- a 司会者が資料をグループの人々に読んで聞かせる。
- b 各メンバーがそれぞれ一段落ずつ読む。
- c グループのメンバー全員がだまって資料を読む。
- d 司会者があらかじめ資料を読んでおき、その内容をグループの人々に話し、そのあと討論に導く。

そして、その冊子の内容全部をあとで家で読むようすすめる。

あなたのグループの人々がくつろいで参加できるようにしてください。

時間についてひとこと付け加えます。グループの討論はおよそ一時間に限るのがいちばんいいでしょう。一回の集まりが残り長びくと疲れてしまいます。ですから、時間の割り当てにしたがって、そのわく内で進めるよう努力して下さい。人々が疲れるまで続けるよりも、時間が来たら止めて、興味を高水準に保つ方がいいのです。

## 霊の賜物の研究の紹介

### なぜ霊の賜物を研究するか？

「霊の賜物の発見」シリーズの第一部を取りあげるにあたって、あなたは、神様がそうあってほしいと望まれる満たされた人物となるための第一歩を踏み出したことになりました。このシリーズは、主イエスのための個人的奉仕についてのあなたの理解を豊かにしてくれるはずで

す。使徒行伝を読むと、若いキリスト教会の驚くべき成功に強く心を動かさずにはいられません。彼らは、およそ三〇年間に、福音を世界中にたずさえて行きました。高い地位の祭司たちの何人かを含む何千人ものユダヤ人たちと、何万人もの異教徒たちが、キリスト教に回心しました。

その記録の至るところに、常に臨在する聖霊が、あらゆる行動を可能にする強力な助け手として認められています。聖霊は、ある人を説教ができるように、またある人を教えるこ

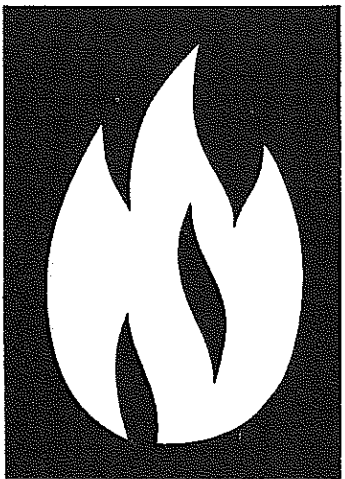
とができるように、そしてまたある人をよいもてながでるようにするのです。ある章の中では、聖霊が教会員の一人に人助けをするのを促しているのがわかりますし、次の章では熱心に説くことを、また、その次の章では有能なリトグトシップを提供するのを促しているのがわかります。

だれもが忙しく、そしてうまくいっているように見えますが、使徒行伝のどこにも、霊的賜物が授与される儀式などを見出すことはできません。私たちはただ、当時の教会員たちが、神様は一人一人に果たすべき役割を用意しておられるということを感じてきたと考えることができるだけです。人はそれを試みたり経験したりすることを通じて発見したと思われ

ます。

その後、教会が、初期の状態から落ち着くにつれて、組織化が不可欠なものになって来ました。私たちが賜物に関するより詳しい記事を新約聖書の中に読むのは、キリスト教会の組織化の時代にはいつてからです。最も初期の記事の一つは、西暦五七年頃に書かれたパウロのコリント人への第一の手紙

— それはパウロの三番目の手紙と思われ— ですが、その中でパウロは、コリント教会の会員がみな同じ賜物をほしがっていることを叱っています。たとえばメンバーの全員がパイロットになりたいと望んでいるあるグループが、航空



会社を始めようとしているとしたらどうでしょう。パイロット一人に対して、手荷物扱い人から整備をする人、予約を受けつける人に至るまで、百人もの他の働き手が必要なのです。霊の賜物についての新約聖書の最初の記事は、偏った賜物の求め方を直すことを試みているのです。

今日の私たちの状況は、コリント人の状況とはいくぶん違っています。彼らは賜物を得ようと争ってひしめき合っていたのですが、これに反して現代では、多くのクリスチャンは、そのことについて論じ合うことさえ控えています。その理由の一つは、ペンテコステ派がただ一つの賜物、異言に異常な強調点をおいていることであるかもしれせん。保守的なクリスチャンは、この現代的現象に対して用心する傾向があり

ます。この異常現象に巻き込まれたくないと思っています。彼らは霊の賜物というものに対し不審の念をもっているように思えます。このような慎重な態度は、教会の歴史をざっとふり返って見ることによって、よりよく理解されることでしょう。

## 霊の賜物に関する交錯した態度

使徒行伝の中には、聖霊は一人一人の人を奉仕のために備えさせるといふ暗黙の了解があるように思われます。教会が空前の速度で繁栄し、成長したのは、霊の賜物によっています。生まれてから四半世紀のあいだは、教会は霊の賜物について何も問題をかかえていませんでした。しかし、五〇年代の後半には、いくつかの困難が表面化したのです。例えば、コリントの教会では、ある一つの賜物に余りにも重点を置き過ぎたため、あるものは他のものよりも重要であるという、賜物の階級制度のような考えが生じました。その結果、ほとんどの教会員が自分たちが「最上級の」賜物と考えるものを切望したのです。私たちは、パウロがその問題を直すのに成功したと考えることができます。なぜなら、その同じ年の後半に書かれた第二の手紙の中には、そのことについて述べたところがないからです。

西暦二世紀および三世紀におこった迫害は、奉仕の働きを弱めるどころかかえって強め拡大せました。殉教者たちの血は聖人たちを生み出す種となり、何百万もの人々がイエス・キリストを見出ししました。そして、四世紀のコンスタンチヌスの統治は、キリスト教会に非常に大きな変革をもたらしました。かつては信者たちは迫害された少数派だったのですが、今や多数派になったのです。コンスタンチヌスは祭司たちに、聖書の中の教訓を教えることなしに、大衆を教化して教会員にするよう命じました。

聖職は急速に特権的な職業となり、多くの祭司たちが、霊的な力よりも政治の力や影響を気にするようになりました。自分の地位を高めるために、彼らは普通の信者たちの奉仕を抑圧しました。たちまち祭司たちは、バプテスマや、結婚や、霊的な交わりの儀式の象徴といった神聖な事からを通じて、あらゆる霊的生活の独占的な推進役となったのです。

後に中世の悪習となった、許しを得るためのお金で買える免罪符も提案されました。このことは、多忙で権威ある存在となった祭司と、奉仕をしない信者たちとのあいだの隔たりを、ますます広げました。

宗教改革は、霊の賜物について知識の欠如を改めるのにはほとんど役に立ちませんでした。しかし、それは、のちの時代

の復興の土台を用意してくれたのです。すべての信者が聖職者であるという聖書の教え(すべての教会員が主の祭司であり、だれもが果たすべき特別の仕事を持たなければならない)をルターが強調したことは、開もなく教会が再び霊的賜物の意義を知ることになるであろうことを保証しました。

千六百年ほどのあいだ、ほとんどこの主題についての強調はなされませんでした。今世紀になって私たちは、強い関心を持って霊の賜物の問題をとりあげています。

## 霊の賜物とは何か？

霊の賜物とは、聖霊の指示のもとに、神のための特別な奉仕をすることのできる能力のことです。

今日私たちのうちの余りにも多くのものが味わっている苦しみは、自分たちが仕事に対して不適任であるということですから！もしも牧師がすべての教会員を特定の活動のために組織しようとするならば、自分は参加することができないと思っしている人々の中に罪悪感を生み出す可能性があります。事実私たちのほとんどは、緊急事態が起こればある一つの仕事に協力することはできます。しかし、毎日毎日の規則的な奉仕についてはどうでしょうか？神様が私たち一人一人にある特別な仕事、すなわち神様のために喜んですることができて、

うまくいく何かを定めて下さっているということは、発見できるはずです。それが新約聖書の霊の賜物の教えです。

## どのくらいの数の賜物があるか？

このシリーズの中では、聖書に述べられている二〇から二五の賜物のうちの一九だけについて論じます。聖書学者たちは、新約聖書の中でいくつの賜物が記されているか、意見が一致していません。いくつかの賜物が重複しているために、断定がむずかしいのです。例えば、管理とリーダーシップは重複していますし、預言と勧告、知恵と洞察力もそうです。数は重要なことではありません。

それにまた、聖書に具体的に名前のあげられていない賜物もほかにあります。ですから、あなた独自の賜物がこのシリーズの中で論じられていなくても、気にしないで下さい。あなたがクリスチャンであるならば、まちがいにあなたには神様が定められた仕事があるはずですし、論じられる賜物は、あなたの賜物の一つと関連しているはずなのです。

## クリスチャンの「賜物」とクリスチャンでない人の「賜物」の違いは何か？

クリスチャンもクリスチャンでない人も同様に、「賜物を

なく豊かにされるのです。

この点を要約するならば、霊の賜物の役割は、そのさきげられた才能や賜物を聖霊の指示のもとに用いながら、可能性をもたらす聖霊の力によって、他の人々に奉仕することであると言えるかもしれません。これらの賜物や才能には次のものが含まれます。(1)誕生以来所有していた能力。(2)新生のち聖霊の指示によって与えられたもの。どちらの場合も、あらゆる賜物の起源である神の寛大な心を示すものであります。

## どうすれば自分の賜物を

### 確信することができるか？

霊の賜物のチェックリストを書き出すことから始めて下さい。次に、リストの上位にある一つか二つを実験してみてください。特定の賜物を奉仕に用いてどう感じるかためしてみてください。それはあなたを幸せにしてくれますでしょうか？的確さを感じますか？それは成功をもたらしますか？教会員たちはあなたをして励ましてくれますか？もしもこれらの質問の一つ一つに「はい」と答えることができるならば、あなたは自分の霊の賜物を確認して、それを用いているのだということを、確信することができます。

与えられていること」は明らかです。エデンの園で神様は、私たちの最初の祖先に、驚くほど多種多様な能力をお与えにしました。(それらは才能の賜物と呼ぶことができます)

遺伝の法則によって、すべての人間が、神の人間創造にまでさかのぼることのできる遺伝的な潜在的な能力を有しています。例えば、入信前に生まれつき管理の才能を持っていた人は、その能力を、福音を受け入れてからも持ちつづけることは当然予想されます。その能力は新しく神の管理者となったクリスチャンのなかで、効力を増していきます。

では、人の遺伝的才能や賜物と聖書の中に描かれている霊の賜物とのあいだにどんな本来的相違があるのでしょうか。これについて答えは必ずしも一致していませんが、おそらく大半の人が、新しく生まれたクリスチャンがその命をキリストにささげるとき、あらゆる遺伝的才能や賜物はイエスの足元に奉仕のために置かれるのだということに同意することはできるはずで、献身の瞬間から、かつての「生まれつきの」ものであったものは「霊的な」ものになり、かつて自分自身に名譽を与えるためになされた働きは、今度はキリストに栄光を与えるものになり、かつて自分自身が受け取っていた栄光はイエスに向けられるようになり、かつてがんばりと勤勉から引き出されていた力は、今度は聖霊の力によって果てし

## おわりに

もしも、あなたが神様のために何らかの奉仕をするための賜物を与えられているならば、あなたは、その奉仕において、教会の他のほとんどのメンバーよりも抜きんでたある能力をもっているはずで、あなたは、他の人々よりもすぐれた何らかの奉仕をすることができるのです。

人はそれぞれある一つの賜物、いやむしろある一束の賜物を有しているものですが、しかし、時には私たちはだれでも、あなたも別の賜物をもっているかのように振るまわなければなりません。例えば、もしもだれかが死にそうなほどおなかをすかせて私の家の戸口までやって来たら、私は、電話に手をのばして、だれか人助けの賜物を持っている人を呼び出すというわけにはいけません。時たま私たちはだれでも、あなたも人間的な要求に答える賜物を有しているかのごとく振るまわなければなりません。それは例外なのです。たいていの場合私たちは、一定の個人的奉仕のために主が私たちにゆだねられた特定の賜物を用いて、主のために奉仕しなければならぬのです。

# ローマ人への手紙に みられる霊の賜物

霊の賜物については、主として聖書の三つの章の中に書かれています。第一部から第三部では、私どもは、一つの霊の賜物と聖書の一つの章について学びます。第四部から第七部では、霊の賜物のリストにあげた一九の賜物を順次取りあげるつもりです。ではローマ二章一節、四節―九節から始めましょう。

一節「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧めます。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である」。

四節「なぜなら、一つのからだにたくさんさんの肢体があるが、それらの肢体がみな同じ働きをしてはいないように」、

- a 預言      b 奉仕      c 教え      d 勧め  
e 寄付      f 指導      g 慈善

## デイスカッション

a パウロは、ローマ人への手紙の後半で、献身について論じています。パウロは、我々自身を「生きた供え物」として神にささげることには「道理になくなっていく」と言っています。「生きた供え物」ということで、パウロは何を意味していますか？

b ローマ二章の中で、パウロは、私たちの主イエスへの個人的献身を説き、霊の賜物について紹介しています。献身と霊の賜物のあいだの関連について、あなたはどう思いますか。献身は、霊の賜物を受けるための唯一の基準ですか。それはなぜですか。

c 献身には二つの種類があるようです。キリストを受け入れるときの献身と、成熟したクリスチャンの活動に見られる「献身」です。この二つの種類の献身について比較し考えて下さい。これと関連して罪と戦うことと罪に



五、六節「わたしたちも数は多いが、キリストにあつて一つのからだであり、また各自は互に肢体だからである。このように、わたしたちは与えられた恵みによって、それぞれ異なる賜物を持っているので、もし、それが預言であれば、信仰の程度に応じて預言をし」、七節「奉仕であれば奉仕をし、また教える者であれば教え」、八節「勧めをする者であれば勧め、寄附する者は惜しみなく寄附し、指導する者は熱心に指導し、慈善をする者は快く慈善をすべきである」。九節「愛には偽りがあってはならない」。

ローマ二章六―九節の中でパウロがあげている、次の七つの賜物に注目してください。

打ち勝つことのあいだの類似点と相違点を考えて下さい。すでに自分の生活の中で聖霊の力を体験した人と、体験していない人とのあいだの違いについて述べてください。

## もてなしの賜物

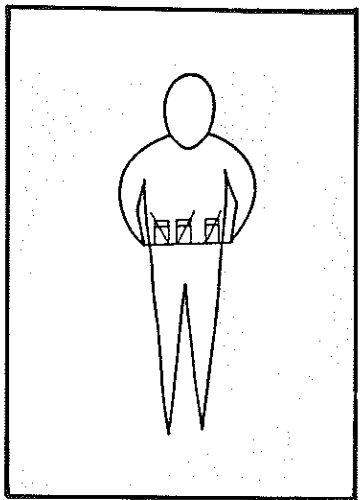
「不平を言わずに、互にもてなし合いなさい。あなたがたは、それぞれ賜物をいただいているのだから、神のさまざまな恵みの良き管理人として、それをお互のために役立てるべきである」(ペテロ第一・四ノ九、一〇)。

### 1、もてなしの原語の意味

ギリシャ語は、*φιλία*、*シノス*です。*フィロ*は「愛」を意味し、*クシノス*は「見知らぬ人、外国人」あるいは「予期しない、あるいは珍しい何か」を意味しています。したがって、その語の基本的な意味は、「見知らぬ人に愛を示す」ということです。

### 2、行為に表されたもてなし

それは、エルサレムからおよそ二〇マイル南方のヘブロンのある暑い日のことでした。アブラハムがテントの入口から



じつと見ていると、遠くの方に、野营地をおおっているかしの木々のあいだから、三人の見知らぬ人たちが歩いて来るのが見えました。いつも来客を喜ぶアブラハムは、急いで外へ出て三人にあいさつしました。三人はアブラハムの招きを感じて、しばらく休息をし、いっしょに食事をしました。その日おそく、太陽があまり暑くなくなった頃、三人はその旅を続けることにしたのです。アブラハムとサラは召使いたちに指図して、食事のしたくをし、もてなしました。しかし、二人は、自分たちがもてなしている人たちがだれなのかほとんど知らなかったのです。

アブラハムの自然なもてなしは、彼を主や主のみ使いたちとの個人的な触れ合いへと導きました。そして、その報いは、

タイ二五ノ二四、三五)。

e もてなしの賜物の生かす目的は、キリストにある一致を促進する(ヨハネ第三・七、八)。

### 4、定義

もてなし「見知らぬ人や、孤独な人、困窮している人に手をさしのべて、友情や、食べ物や、庇護を、必要に応じて与えるための霊の賜物。」

### 5、賜物の誤用

時には、この賜物を持っている人たちが、他の人々によって、過重負担を押しつけられることがあります。また、時には、この賜物を働かせている人たちが、自分たちのもてなしに熱中するあまり、自分たちの個人的な霊の成長を怠ることもあります。

### 6、デイスカッション

a だれかが、もてなしの賜物を働かせて、あなたを祝福してくれたいという経験を、思い出すことができますか？

その時代の人々には理解できないある約束でした。それは歴史を変えることになる賜物だったのです。サラは、偉大なる民族、ユダヤ民族の父となるはずの一人の子供を生むことになったのです。そして、その血統を通じて、主ご自身が世界を救うためにお生まれになることになったのです。

### 3、もてなしの賜物の五つの面

次の a、b、c にしるされている引用句は、ギリシャ語の *フィロクシノス* を用いています。d と e の引用句は同義語を用いています。

a 教会の指導者たちはみな、もてなしの賜物を持つべきである(テトス一ノ八、テモテ第一・三ノ二)。

b もてなしの賜物は、それ自体を楽しく自然に表さなければならぬ(ペテロ第一・四ノ九、一〇)。

c 我々のもてなしを受ける見知らぬ人々は、み使いたちである可能性がある(ヘブル一三ノ二)。

d 見知らぬ人へのもてなしは主へのもてなしである(マ

b もてなしの賜物は、あなたの教会にとってどんな祝福となるでしょうか。求道者の育成でしょうか、伝道でしょうか。

c あなたの教会の訪問者は、あなたの教会を、つぎのどの評価をする可能性が多いでしょうか。

すばらしいもてなしをする。  
かなりもてなしがいい。  
あまりもてなしがよくない。

それはなぜでしょうか。

## 7、もてなしの賜物の確認

もしもあなたが自分にはもてなしの賜物があると思われるならば、次の質問と示唆を考えて下さい。

あなたは近所へ初めてやって来た人を気楽に訪問しますか。あなたは困窮した一家がいたら一晩泊めるでしょうか。もしもあなたが孤独な人を一人も知らなかったら、あなたは地域のコミュニティ・サービス機関を進んでたずねて、感謝祭やクリスマスのような特別な場合に、どこへも行くところがな  
い人の名前を教えてもらいますか。あなたは教会の礼拝のあ

と、きまってみ知らぬ人を自分の家へ食事に呼びますか。あなたは、ひとりぼっちのように見える人をさがし出して、その人たちを一晩家に招待しようとおもったことがありますか。

## 予習

コリント第一・一二章を調べて、勧告の賜物について論じているガイド第二部を学んでください。

- ・ 勧告するということは何を意味していますか。
- ・ もしもあなたが本当にそれを欲し、積極的に求めたら、あなたは特定の賜物を得ることができるとは思いませんか。
- ・ コリントの教会は驚くほどの賜物の選択をしましたが、組織的大混乱を経験しました。その主題を学ぶことは、組織的問題につながる可能性があるでしょうか。
- ・ 霊的賜物について聖霊にまかせるのは安全でしょうか。
- ・ ある賜物を得て、のちにそれを失うということはあり得るでしょうか。